

平成27年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年1月14日

上場会社名 株式会社サマンサタバサジャパンリミテッド 上場取引所 東
 コード番号 7829 URL http://www.samantha.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)寺田 和正
 問合せ先責任者 (役職名)取締役 (氏名)古市 知元 (TEL)03(5412)8193
 四半期報告書提出予定日 平成27年1月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

1. 平成27年2月期第3四半期の連結業績(平成26年3月1日～平成26年11月30日) (百万円未満切捨て)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|-------------|--------|------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 27年2月期第3四半期 | 27,891 | 33.1 | 1,665 | 217.7 | 1,765 | 151.5 | 739 | 257.2 |
| 26年2月期第3四半期 | 20,954 | 8.9 | 524 | 205.4 | 702 | — | 207 | — |

(注) 包括利益 27年2月期第3四半期 713百万円 (303.6%) 26年2月期第3四半期 176百万円 (—%)

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|-------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 27年2月期第3四半期 | 20.96 | — |
| 26年2月期第3四半期 | 5.87 | — |

(注) 当社は、平成25年6月1日付で普通株式1株を2株とする株式分割を行い、平成26年3月1日付で普通株式1株を100株とする株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|-------------|--------|-------|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 27年2月期第3四半期 | 22,259 | 9,193 | 40.2 |
| 26年2月期 | 17,232 | 8,593 | 49.4 |

(参考) 自己資本 27年2月期第3四半期 8,951百万円 26年2月期 8,509百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 26年2月期 | — | 400.00 | — | 400.00 | 800.00 |
| 27年2月期 | — | 5.00 | — | — | — |
| 27年2月期(予想) | — | — | — | 5.00 | 10.00 |

(注) 1 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2 平成27年2月期(予想)の年間配当金については、平成26年3月1日付の普通株式1株を100株とする株式分割を考慮した金額を記載しております。

3. 平成27年2月期の連結業績予想(平成26年3月1日～平成27年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|--------|------|-------|------|-------|------|-------|------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 38,850 | 23.0 | 3,280 | 79.7 | 3,250 | 61.7 | 1,480 | 74.5 | 41.93 |

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

新規 — 社(社名) 、除外 — 社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

| | | | |
|----------|-------------|--------|-------------|
| 27年2月期3Q | 35,296,000株 | 26年2月期 | 35,296,000株 |
|----------|-------------|--------|-------------|

② 期末自己株式数

| | | | |
|----------|----|--------|----|
| 27年2月期3Q | 一株 | 26年2月期 | 一株 |
|----------|----|--------|----|

③ 期中平均株式数(四半期累計)

| | | | |
|----------|-------------|----------|-------------|
| 27年2月期3Q | 35,296,000株 | 26年2月期3Q | 35,296,000株 |
|----------|-------------|----------|-------------|

(注) 当社は、平成25年6月1日付で普通株式1株を2株とする株式分割を行い、平成26年3月1日付で普通株式1株を100株とする株式分割を行いました。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、平成26年2月期及び平成27年2月期第3四半期の株式数を算定しています。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(その他特記事項)

当社は、平成26年1月20日開催の取締役会決議に基づき、平成26年3月1日を効力発生日として普通株式1株を100株とする株式分割を実施いたしました。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 連結経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 連結財政状態に関する説明 | 4 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 4 |
| 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 | 5 |
| (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 | 5 |
| (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 | 5 |
| (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 | 5 |
| 3. 四半期連結財務諸表 | 6 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 6 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 8 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 10 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 10 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 10 |
| (セグメント情報等) | 10 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府及び日銀の積極的な経済・金融政策の推進により、景況感には改善の動きがみられました。また、消費税増税前の駆け込み需要などもあり、個人消費の増加も見られました。しかしながら、4月以降は増税に伴う消費マインドの冷え込みが長期化し、また、円安による原材料価格の上昇などもあり、先行きはなお不透明な状況で推移しました。

当社グループの主要な関連業界である百貨店を含む小売業界におきましては、消費税増税後の駆け込み需要の反動の長期化や夏場の天候不順もあり、厳しい経営環境となっております。

このような状況のもと、当社グループは、「良い人、良い場所、良い商品、良い宣伝」の実施を事業戦略にかかげ、効果的な店舗展開とプロモーション活動及び商品戦略などを展開してまいりました。

・店舗展開について

出店戦略として、多くの話題スポットや新しい地域への出店、大型商業施設との取り組みなどを行ってまいりました。

バッグ事業においては、41店舗を出店いたしました。国内では昨年度より展開しているファストファッションブランド「Samantha & chouette」の出店を加速し、「デラックス&シュエット ギャラリー グランツリー武蔵小杉店」を出店したほか、大型商業施設であるイオンモールなどに14店舗を出店いたしました。さらに、成田国際空港第1ターミナルに国内主要国際空港の免税ショッピングエリア5店舗目となる「Samantha Thavasa FaSoRa TAX FREE HARAJUKU店」を出店いたしました。また、次の20周年に向けた新たな取り組みとして、三越伊勢丹グループとの協業で、ハイエンドな新ブランド「ラブリュム サマンサタバサ (LAPLUME SAMANTHA THAVASA)」をスタートし、伊勢丹新宿、銀座三越、日本橋三越に出店いたしました。海外では、アメリカ合衆国ハワイ州ホノルルにあるショッピングセンター「アラモアナショッピングセンター」の2階の好立地に「サマンサタバサ ハワイアラモアナセンター店」を出店いたしました。また、香港において「サマンサ&シュエット ギャラリー 崇光 銅鑼湾店」を出店いたしました。

ジュエリー事業においては、「サマンサティアラブライダル&ジュエリー 銀座本店」が、「サマンサティアラブライダル&サマンサタバサ 銀座本店」としてリニューアルオープンいたしました。

ゴルフ事業においては、「Samantha Thavasa UNDER25 & No.7 池袋東武店」を出店いたしました。

アパレル事業においては、20店舗を出店いたしました。新ブランド「RedyAzel by Honey Bunch(レディアゼル バイ ハニーパンチ)」の第1号店を新宿ルミネエストに出店いたしました。また、新ブランド「Muller(ミューラー)」をSHIBUYA109などに6店舗出店いたしました。

その他、プレミアムなアウトレット店舗に2店舗出店いたしました。

その結果、サマンサタバサグループ合計でブランド変更を含め64店舗を出店いたしました。

・プロモーション活動について

プロモーション活動としては、積極的なCMプロモーションや、多数のファッション誌への掲載、ファッションショーへの協賛、ゴルフトーナメントの開催などを継続して行ってまいりました。

バッグ事業においては、日本国内のみならずアジアでも絶大な人気を誇るダンス&ヴォーカルグループであるEXILE TAKAHIROさんと「ミランダ・カー」との夢の共演が実現した「Samantha Thavasa meets SAMANTHA KINGZ」のCMを放映し、「Samantha Thavasa」と共にメンズブランド「SAMANTHA KINGZ」初のCMプロモーションを行いました。本CMは、共に芥川賞作家でもあり、実生活でも夫婦でもある阿部和重氏、川上未映子氏を書き上げたサマンサタバサオリジナル恋愛小説をリンクさせ、CM、WEB、店頭を結ぶ立体的なプロモーションが大きな反響をよびました。

また、EXILEのD.N.Aを受け継ぎ本格的なダンスパフォーマンスを展開する女性グループ「E-girls」が、「Samantha Vega」のバッグと共に、圧倒的なダンスパフォーマンスと音楽とファッションで魅せる「サマンサベガ×ハニーパンチ～Disney New Collection～meets E-girls」スペシャルCMを放映いたしました。

さらに、日本最大級のリアルクローズファッションショーでアジア最高峰を目指している「神戸コレクション」「東京ランウェイ」に協賛し、「サマンサタバサ」やアパレルの「ハニーパンチ」「シークレットハニー by ハニーパンチ」の新作商品をステージでお披露目し、会場のお客様から印象に残ったブランド1位を頂きました。

ジュエリー事業においては、Samantha Tiara & Samantha Thavasa “サマンサティアラ ジュエリー”のCMを放

映し、当社設立20周年アニバーサリー特別企画のジュエリーを紹介いたしました。本CMには、現在絶対的な人気を誇る三代目 J Soul Brothers from EXILE TRIBEから、岩田剛典さん、今市隆二さん、登坂広臣さんが出演しています。

ゴルフ事業においては、当社グループが主催する女子ゴルフトーナメントである、「サマンサタバサ ガールズコレクション レディーストーナメント 2014」を、7月18日(金)～20日(日)の3日間、茨城県・イーグルポイントゴルフクラブで開催し、大会3日間で約1万5千人の方にご来場いただきました。

・商品戦略について

各ブランド事業において新作を販売し、多様化するファッションニーズに応える商品を積極的に展開してきました。また、商品の魅力をより高める雑誌や人気モデルとのコラボレーションを継続し、商品の販売増につながりました。

バッグ事業においては、高品質のレザー商品である「アゼル」「ヴィリエ」「レディアゼル」「ルイーザ」「アゼルフルーリ」が堅調に推移いたしました。また、日本テレビ系列の朝の人気番組「スッキリ!!」とのコラボ第2弾としてお客様の声を反映し機能性を重視した商品の開発に注力した「エンヴィー」などを販売し、大きな反響を呼びました。さらに、新ブランドとして、日本製にこだわった世界に向けてのハイエンドブランド「LAPLUME SAMANTHA THAVASA(ラプリュム サマンサタバサ)」を三越伊勢丹グループと協業し立ち上げました。

ジュエリー事業においては、ブライダル強化とK18商品を中心に堅調に推移いたしました。また、ディズニー映画『アナと雪の女王』の公開に合わせてディズニーコレクション『アナと雪の女王』シリーズを販売いたしました。そして、当社設立20周年アニバーサリー特別企画として、サマンサティアラ「ラブチェーン」シリーズを販売いたしました。さらに、新作ジュエリーとして、ネックレスの両面にストーンをセッティングした「Heart Re BirStone ～ハートリバーストーン～」、鼓動や振動に合わせて揺れるストーンが話題な「SWINGLE～スウィングル～」を販売いたしました。

アパレル事業においては、当社グループのアパレル会社である株式会社バーンデストジャパンリミテッドより新ブランド「RedyAzel by Honey Bunch(レディアゼル バイ ハニーバンチ)」がデビューし、第1号店を新宿ルミネエストに出店いたしました。当ブランドは、人気モデル藤井リナさんの手掛けるラインも展開し、メディアから注目を集めています。また、新ブランド「Muller(ミュラー)」を立ち上げ、SHIBUYA109店をフラッグシップショップとして展開を開始いたしました。

当社のブランドである「Samantha Thavasa Petit Choice」については、消費者ニーズに対応した高い商品力が評価され、ファッション業界に貢献した企業・団体・個人に贈られる「第32回(2013年度)百貨店バイヤーズ賞」(織研新聞社主催)を平成26年5月に受賞いたしました。また、「Samantha Thavasa」「Samantha Vega」「Secret Honey by Honey Bunch」が「第16回(2013年度)ディベロッパが選んだテナント大賞」(織研新聞社主催)の部門賞を受賞いたしました。

・消費税増税対策について

当社グループは、平成26年4月1日に実施された消費税増税に対し、1年以上前から「消費税増税に絶対勝つ!」をテーマに、商品企画から販促、人材育成等と、当社グループ全スタッフで立体的に取り組んでまいりました。また、毎月異なるカラーや、限定カラーのバッグ職人によるオールレザーのミニミアゼルチャームやサマンサタバサの人気アイコン「アイミーベア」の大親友「ハニーベア」のプレゼントによる積極的な販促活動も実施いたしました。その結果、当社の平成26年4月度の売上高は前年同月対比130%を達成し、その後も順調に推移しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は278億91百万円(前年同期比33.1%増)、売上総利益は184億99百万円(前年同期比32.7%増)、営業利益は16億65百万円(前年同期比217.7%増)、経常利益は17億65百万円(前年同期比151.5%増)、四半期純利益は7億39百万円(前年同期比257.2%増)となりました。

(2) 連結財政状態に関する説明

(資産)

総資産は222億59百万円であり、前連結会計年度末と比較して50億27百万円増加しております。主な増加要因は、現金及び預金が9億38百万円、受取手形及び売掛金が8億84百万円、商品及び製品が23億56百万円、有形固定資産が6億98百万円増加したことなどによるものであります。

(負債)

総負債は130億66百万円であり、前連結会計年度末と比較して44億27百万円増加しております。主な増加要因は、支払手形及び買掛金が9億13百万円、長期借入金が31億73百万円増加したことなどによるものであります。

(純資産)

純資産は91億93百万円であり、前連結会計年度末と比較して6億円増加しております。主な増加要因は、利益剰余金の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成26年10月15日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にて発表いたしました、通期の業績予想について、変更はありません。今後、連結業績予想数値の修正の必要が生じた場合には、適時適切に開示を行ってまいります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成26年2月28日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 2,509,680 | 3,447,915 |
| 受取手形及び売掛金 | 2,558,093 | 3,442,594 |
| 商品及び製品 | 5,859,588 | 8,216,096 |
| 仕掛品 | 31,207 | 14,048 |
| 原材料及び貯蔵品 | 295,122 | 317,628 |
| その他 | 996,313 | 793,467 |
| 貸倒引当金 | △1,443 | △1,291 |
| 流動資産合計 | 12,248,563 | 16,230,460 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 1,095,634 | 1,794,552 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | 908,525 | 837,475 |
| その他 | 287,751 | 417,060 |
| 無形固定資産合計 | 1,196,277 | 1,254,536 |
| 投資その他の資産 | | |
| 差入保証金 | 2,085,062 | 2,323,089 |
| その他 | 606,688 | 656,959 |
| 投資その他の資産合計 | 2,691,750 | 2,980,049 |
| 固定資産合計 | 4,983,662 | 6,029,138 |
| 資産合計 | 17,232,225 | 22,259,598 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 1,909,702 | 2,823,673 |
| 短期借入金 | 1,272,020 | 1,557,100 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 1,606,676 | 840,154 |
| 未払法人税等 | 848,673 | 480,792 |
| 賞与引当金 | 193,685 | 429,451 |
| その他 | 1,040,805 | 2,000,049 |
| 流動負債合計 | 6,871,563 | 8,131,221 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 1,647,237 | 4,820,368 |
| その他 | 119,879 | 114,413 |
| 固定負債合計 | 1,767,116 | 4,934,781 |
| 負債合計 | 8,638,680 | 13,066,002 |

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成26年2月28日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成26年11月30日) |
|---------------|-------------------------|-------------------------------|
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,132,600 | 2,132,600 |
| 資本剰余金 | 2,252,600 | 2,252,600 |
| 利益剰余金 | 4,208,021 | 4,629,988 |
| 株主資本合計 | 8,593,221 | 9,015,188 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 10,658 | 24,863 |
| 為替換算調整勘定 | △94,228 | △88,291 |
| その他の包括利益累計額合計 | △83,570 | △63,427 |
| 少数株主持分 | 83,894 | 241,835 |
| 純資産合計 | 8,593,544 | 9,193,595 |
| 負債純資産合計 | 17,232,225 | 22,259,598 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日) |
|-----------------|--|--|
| 売上高 | 20,954,238 | 27,891,194 |
| 売上原価 | 7,013,366 | 9,391,543 |
| 売上総利益 | 13,940,871 | 18,499,650 |
| 販売費及び一般管理費 | 13,416,557 | 16,833,776 |
| 営業利益 | 524,314 | 1,665,873 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 637 | 994 |
| 受取配当金 | 10 | 577 |
| 為替差益 | 107,394 | 139,121 |
| 補助金収入 | 2,302 | 707 |
| 償却債権取立益 | 51,900 | — |
| その他 | 46,420 | 2,930 |
| 営業外収益合計 | 208,664 | 144,332 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 29,148 | 27,364 |
| たな卸資産処分損 | — | 11,926 |
| その他 | 1,725 | 5,111 |
| 営業外費用合計 | 30,874 | 44,402 |
| 経常利益 | 702,104 | 1,765,803 |
| 特別利益 | | |
| 関係会社株式売却益 | 105,570 | — |
| 固定資産売却益 | 210 | — |
| 負ののれん発生益 | 41,232 | — |
| 特別利益合計 | 147,013 | — |
| 特別損失 | | |
| 固定資産除却損 | 84,607 | 27,459 |
| 固定資産売却損 | — | 42 |
| 関係会社株式売却損 | 40,841 | — |
| その他 | 26,447 | — |
| 特別損失合計 | 151,896 | 27,502 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 697,221 | 1,738,301 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 184,049 | 939,499 |
| 法人税等調整額 | 345,936 | 119,014 |
| 法人税等合計 | 529,985 | 1,058,514 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 167,235 | 679,787 |
| 少数株主損失(△) | △39,841 | △59,843 |
| 四半期純利益 | 207,076 | 739,631 |

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年11月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成26年3月1日 至平成26年11月30日) |
|-----------------|--|--|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 167,235 | 679,787 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 13,988 | 14,205 |
| 為替換算調整勘定 | △4,307 | 19,970 |
| その他の包括利益合計 | 9,680 | 34,175 |
| 四半期包括利益 | 176,915 | 713,962 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 201,808 | 759,773 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | △24,892 | △45,809 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

当社グループは、「ファッションブランドビジネス」という単一のセグメントであるため、記載を省略しております。